

## 第 1 回新潟市除雪体制等検証会議での主な意見

日時：令和 3 年 6 月 4 日（金）10:00～12:00

会場：新潟市役所本館第 5 委員会室

### 広報・情報発信に関する意見

- 「除雪車運行管理システム」による、「除雪車がどこを走っているか」の情報を市民へ提供することも、今回の大雪を踏まえると重要な観点。
  
- 「広報」に関して、まだ市民に伝えきれていない部分がある。
  - ・ 大雪等の災害事態における「道路管理者の限界」。
  - ・ 昭和の時代のような大雪が、何年かに 1 度降る可能性があるということ。
  - ・ 今の財政状況で、完璧な除雪対応は無理だということ。
  - ・ どの程度の大雪が新潟市にとって除雪の限界状態なのか。
  
- 情報発信について、伝え方の工夫や検討する必要がある。
  - ・ 「状況がこうなった場合に、市民や企業はこうして欲しい」という対応ベースの情報。
  - ・ 大雪時の移動見込み（外出してもどこにも行けない、いつもより何倍も時間がかかる）。
  - ・ 除雪協力の情報（市民・自治会でやってほしいこと等）。
  - ・ 雪の降らない地域からきた人への除雪のやり方を指導。
  
- 水害時の警報レベルのような「レベル 3、レベル 4」といったわかりやすい情報の提供。  
市民の行動を強制はできないが、一部の企業・団体に休むところが出るかもしれない。そのような事例を取り上げ、広報していくことで、災害時の大雪対策が市民や企業へ広がるのではないかと。
  
- 異常降雪時は、「災害が起きている」ということを市民にもっと PR する必要がある。
  
- 市民に「外出を控える」という認識をどれだけ伝えられるかが重要。災害級の異常降雪のなか、学校や企業に休むように協力を呼び掛けてはどうか。
  
- 市民へは、「雪はすべて取り除けず時間もかかる」ことをわかってもらうしかない。そうしないと物流は止まり、緊急車両の活動もできなくなる。市民の理解・協力が不可欠。
  
- 渋滞等が発生した場合、道路交通情報センター等を通じて積極的な広報に努めている。除雪が終わっている路線や、道路の通行可否などの情報を共有できれば、より効果的な広報もできるのではないかと。

## 除雪体制に関する意見

- 生活道路などの幅員の狭い路線は、雪を置く場所がなく相当苦勞した。その雪をどこに運ぶかも問題であった。
- 除雪経費は時間がかかればそれだけ増えるので、路線ごとの機械の割り当て等を見直してはどうか。

## 公共交通・渋滞に関する意見

- 昨冬は、JR が前日夕方の時点で早期運休を決めたことから、自家用車やバスで出勤・通学のため外出したというのが、渋滞を招いた原因のひとつだと思う。
- 昨冬の雪ではすべてのバス路線を除雪することは恐らく難しい。バスがすれ違いできるまで除雪する路線と、そうでない路線を設定すると良いのでは。
- 「大雪時に必ず運行する路線」や「迂回する路線」、「運休する路線」を決めていたが、想定していない部分で支障が生じ、運行するとしていた路線で運行できないことがあった。